

親子の注意欠如・多動症的行動特性と養育ニーズに関する検討

○齊藤 彩 (お茶の水女子大学)
坂田侑奈 (お茶の水女子大学大学院)

佐藤みのり (お茶の水女子大学大学院)

キーワード：注意欠如・多動症的行動特性，親子，養育ニーズ

問題と目的

近年，成人期の発達障害への関心が高まっている。Dissanayake et al. (2019) は，親の自閉症的行動特性 (ASD 特性) と養育ニーズとの関連を明らかにし，ASD 特性が高い親は養育におけるさまざまな困難に直面しやすいことを示唆している。注意欠如・多動症 (ADHD) については，例えば，ADHD をもつ母親における不適切な養育態度のリスクの高さが指摘されているものの (Johnston et al., 2012)，注意欠如・多動症的行動特性 (ADHD 特性) と養育ニーズとの関連については，これまでに十分に明らかにされていない。一方，子どもの ADHD 特性の高さについては，母親からのあたたかな養育の少なさや母子間の葛藤の多さとの関連が報告されており (齊藤他，2016)，子どもの ADHD 特性の高さも養育におけるニーズの高さとの間に関連を示す可能性が想定される。本研究は，親子の ADHD 特性と養育ニーズとの関連について実証的検討を行った。

方 法

調査対象者と手続き 関東甲信越地方の小学校 5 校の児童の母親 341 名と父親 159 名の回答を分析の対象とした。2019 年 11 月～2020 年 2 月に，教員が質問紙を配布し，郵送により回収を行った。
測定尺度 (1) 親の ADHD 特性：Adult ADHD Self-Report Scale (ASRS) (Kessler, 2005) 18 項目，(2) 子どもの ADHD 特性：Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ) (Goodman, 1997) の多動性・不注意 5 項目，(3) 養育ニーズ：Parenting Needs Questionnaire (Dissanayake et al., 2019) を原著者の許可の下にバックトランスレーションの手続きを経て翻訳した日本語版 44 項目 (下位尺度：手本／行動の教示，ニーズの理解，愛情，感情のコントロール，注意／つながり，突発性，コミュニケーション，危険への意識，感

覚の問題)

結果と考察

母親・父親の ADHD 特性の各得点は，養育ニーズの全下位尺度得点との間に正の関連を示した。カットオフ値以上の ADHD 特性を示す「ADHD 臨床相当群」の母親は，感情のコントロール，注意／つながり，突発性，感覚の問題におけるニーズが高く，「ADHD 臨床相当群」の父親は，手本／行動の教示，突発性，コミュニケーションにおけるニーズが高いことが示された。

Table 1 養育ニーズ得点の平均値の比較

	臨床相当群 n = 29	非臨床群 n = 312	有意差
＜母親＞			
手本／行動の教示	5.55	4.89	
ニーズの理解	4.97	4.14	
愛情	4.72	3.83	
感情のコントロール	9.62	7.86	**
注意／つながり	6.83	5.64	*
突発性	5.79	4.57	**
コミュニケーション	4.41	4.24	
危険への意識	4.93	4.14	
感覚の問題	5.76	4.58	**
＜父親＞	n = 16	n = 143	
手本／行動の教示	8.19	5.29	**
ニーズの理解	6.69	4.98	
愛情	5.69	4.45	
感情のコントロール	8.56	7.15	
注意／つながり	6.50	4.71	
突発性	7.06	5.24	*
コミュニケーション	7.00	4.78	*
危険への意識	6.31	4.25	
感覚の問題	6.25	4.73	

* $p < .05$, ** $p < .01$

一方，子どもの ADHD 特性の高さについても，養育ニーズに関する全下位尺度得点との間に正の関連を示した。

本研究により，ADHD 特性が高い親および／または子どもの家庭では，養育におけるさまざまな困難に直面しやすく支援ニーズが高いことが示唆された。特に，ADHD 特性が高い母親と父親とではニーズが高い領域が異なるため，それぞれに適した支援の充実が求められるといえるだろう。

引用文献

Dissanayake et al. (2019) *J Aut Dev Dis*, doi: 10.1007/s10803-019-03984-4.